

日本的経営を 説明する ための 辞書



Dictionary of Japanese Business Culture

引野剛司・長野 晃編著

日本的経営を 説明する ための 辞書

引野剛司・長野 晃編著

Dictionary of Japanese Business Culture

ダイヤモンド社

編著者略歴

ひきの たけし
引 野 剛 司

1948年，神戸生まれ。神戸商大卒。1972年，毎日新聞社入社。1974～75年，フルブライト留学生としてオハイオ大学スクール・オブ・ジャーナリズム大学院に留学。現在，英文毎日編集部記者。

著書に『アメリカ英語これが常識』『アメリカ英語おもしろノート』『アメリカ英語ものしりノート』，共著に『英語を書く』（いずれもダイヤモンド社）がある。

なが の あきら
長 野 晃

1939年，大阪生まれ。1964年，同志社大学経済学部卒業。同年，松下電器産業株式会社入社。現在，同社広報本部海外広報課勤務。社団法人日本時事英語学会会員。

日本の経営を説明するための辞書

昭和 57 年 12 月 9 日 初版発行

定価 1200円

編 著 者 引 野 剛 司
 長 野 晃

© 1982 Hikino & Nagano

発行所 ダイヤモンド社	郵便番号 100
	東京都千代田区霞が関 1-4-2
	編集 電話 東京 (504) 6403
	販売 電話 東京 (504) 6517
	振替口座 東京 9-25976

落丁・乱丁本はお取替えいたします

加藤文明社印刷・大島製本
0082-961500-4405

まえがき

日本の会社のしくみや“日本的経営”について、外国人に英語で説明しなければならないという必要に迫られたことのある人は少なくはないと思います。

日常、さりげなく使っていることばでも、いざ英語でいうとなると意外にむずかしいものです。とりわけ、日本的な経営風土のなかから生まれてきたことばを英語で表現しなければならないということになると頭を抱えてしまいます。

手元にあるいくつかの和英辞書にあたってみても、調べたい日本語そのものが入っていなかったり、たとえあったとしても、その訳語はもうひとつしっくりこないということも多いようです。

そこで、日本の会社を外国人に誤解されることなく英語で説明するためのまとまった和英辞書のようなものがあれば便利なのではとかねてから考えていました。

さいわい、昨今は“日本的経営”ブームで、日本の企業活動や組織・経営について欧米の新聞や雑誌がしばしばとりあげ、単行本も数多く出版されています。こうした記事を読んでいると、なるほどと思わせられる表現にいくらかもぶつかります。こういういい方をすれば、あるいはこんなことばを使えば日本的なものが外国人にも理解されるのかといったものがぞくぞくとでてきます。

こうしたことばを1つずつカードに記録、整理し、まとめたのがこの小著です。

日本の会社で頻繁に使われていることばを英語にするにあたって、

おおむね3つのタイプに大別することができます。

第1は、日本語も英語もまったく同一の意味をもち、同じ状況のもので使われるもの。

第2に、英語にも日本語と似たようなことばはあるが、多少ニュアンスが違っていたり、使われ方の異なるもの。

最後に、日本固有の“ビジネス・カルチャー”から生じたことばで、英語にはないもの。また逆に、日本語にはなくて、英語にはあるものの3つです。

本書をまとめるにあたって、こうしたことばの文化的な違いを念頭において作業を進めました。とくに、第2、第3のタイプにあたることばについては、できるだけ解説を試みる努力をしました。訳語は、筆者の限られた知識で翻訳したものを紹介するのではなく、欧米のジャーナリズムで実際に使われているものをのせています。つまり、日本人が考えた独善的な試訳ではなく、英語を母国語とする人が、同じく英語を母国語とする人のために選んで使っていることばを紹介するようにしました。

もっとも、本書にあげた訳語がすべてというわけではありません。一応、代表的なものをあげているにすぎません。

例文は、“日本的経営”について欧米人の見方や解釈がわかるようなもの、日米のビジネス・カルチャーの相違がわかるようなものをできるだけ選びました。引用した用例で、筆者の責任において、ほんのわずかではありますが、手を加えているものもいくつかあります。また、用例の和訳は逐語訳ではなく、文意がわかるように意訳をしています。

用例を採集した新聞、雑誌、単行本は212ページに掲げた通りです。

1982年11月

引野剛司

長野 晃

目 次

まえがき

あ

愛社精神	3
天下り	5
アルバイト	5
一時帰休	7
一流企業（大手企業）	8
一貫生産メーカー	8
一体感	9
一匹オオカミ	9
引退	10
えこひいき	11
エリート	12
宴会	14
OEM取引	14
お茶くみ	15
オフィス・オートメーション	16
親会社	17

か

海外駐在員	18
皆勤	18
解雇	19
会社員	21
会社更生法	22
会社人間	23
会社の組織名称	24
会社訪問	25
学閥	26
学歴	27
過剰生産設備	28
かせぎ頭	28
家族主義的経営	30
家族手当	31
家族的雰囲気	31
肩書き	32
肩たたき	33
幹部	34
基幹産業	34

企業イメージ	34	繰上げ定年退職	54
企業家精神	35	経営基本方針	54
企業グループ	36	経営者	55
企業内組合	36	経営陣の刷新・交代	56
企業の	38	経営理念	57
機構改革	39	経費削減	57
技術系卒業生	39	経歴	58
帰属意識	40	決裁する	58
希望退職	40	権限委譲	59
キャリアウーマン	41	健康管理制度	59
休暇	42	現地化	59
QCサークル	43	現地会社	60
休日出勤	44	現地採用	60
求職者	44	現地生産	61
求人企業	45	原点に戻る	61
求人パンフレット	45	減量経営	62
給与	45	後継者	63
給与カット	46	広告掲載商品	64
教育訓練・研修	47	工場閉鎖	65
業界	48	交替制	65
行政指導	49	後発企業	66
業績	50	合理化	67
業績不振産業	50	子会社	68
共同体意識	51	国際化	68
巨大企業（マンモス企業）	51	国際人	69
勤続年数	52	腰かけ仕事	70
勤務時間	52	コネ	70
勤労意欲	53	ごますり	71
苦情	54		

雇用の保障	72	辞表	90
コンセンサス方式による経営	72	事務職	91
さ		社員食堂	91
財界	73	社員バッジ	93
再建	74	社員番号	93
再雇用	75	社員割引	94
採用	76	社歌	94
採用内定者	76	社外重役	95
左遷	77	社会人	96
参画意識	77	社是	97
産休	78	社宅・社員寮・独身寮	99
残業	78	社長	100
資格制度	79	社長室	102
指揮命令系統	80	社長命令	103
事業を手放す	80	社内運動会	104
事業を統合する	81	社内結婚	104
事業を分離する	81	社内賞	105
自己啓発	82	社内通達	105
仕事	82	社内報	105
自社株購入制度	85	社内旅行	106
自社生産	86	社風	106
自主管理	86	社有車	108
下請け	87	社用族	108
失業	88	週休2日制	109
実力	89	従業員の自然減	109
自動化(オートメ化)	89	就業規制	110
老舗	90	就職課	110
		終身雇用	111
		集団主義	112
		週労働時間	113

出勤する	114	人事考課	133
出世・昇進	114	進出する	134
出世コース	115	新卒を採用する	134
出世の早い	116	新入社員	135
出張	117		
春闘	118	スタッフ	136
上意下達・下意上達	119	スタンドプレー	136
生涯教育	120	ストレス	136
試用期間	120		
昇給	120	生活費調整給	137
商才	121	生殺与奪の権	138
上司	121	生産技術	139
少数精鋭	122	生産縮小	139
商品化	123	生産性	139
嘱託	123	生産設備を更新する	139
職場	124	生産調整	140
職場体操	124	生産能力	140
職務分掌	126	正社員	140
職歴	126	製造現場	141
処世術	126	製造工程	141
職階級制	127	製造要員	142
初任給	128	製品種目	142
処理を誤る	128	専業メーカー	143
人員削減	129	先端技術産業	143
新規参入企業	130		
新規事業	130	粗悪品	144
人件費	130	操業率	144
新興企業	130	総合商社	145
人材	131	総合メーカー	145
人材開発	132	疎外感	146

た

第一線の	147
退職金	147
タイム・レコーダー	148
多角化	149
多国籍企業	149
たたきあげの	149
脱サラ	150
単身赴任する	151
遅刻	151
中間管理職	152
中途採用者	152
朝礼	154
直轄の組織	154
賃金総額	155
通勤手当	155
つきあい	156
ツルの一声	157
提案制度	157
定職	158
低成長産業	158
定年退職	158
定評	159
適材適所	160
出来高賃金制	160

出来ばえ	161
てこいれをする	161
手取給与	162
手広い事業	162
転換期	162
転勤	163
転職	163
同期生	165
動機付け	166
同族会社	167
同僚	168
トップ・ダウン	168
共稼ぎ	169
トンネル会社	170

な

仲間意識	170
日常業務	171
日本株式会社	172
入社式	172
入社試験	172
人間関係	173
値引き競争	173
根まわし	173
年金	175
年功序列制	175

能力 176

は

買収 177

配置転換 178

働きがい 179

抜てきされる 180

パートタイマー 181

非稼動時間 181

非採算の 181

ヒット商品 182

平社員 182

部下 183

副社長 183

歩留り 185

プライベート・ブランド取引 185

不良率 186

ベテランの 186

ペーパーワーク 187

ボーナス 187

保養所 188

本社 189

ま

マイホーム主義 189

祭り上げる 190

窓際族 190

〇〇マン 192

見返り 193

無断欠勤 194

名刺 195

もうかる 195

目標管理 196

持ち株 196

モデル工場 197

や

役得 197

遊休設備 198

優良企業 199

ら

ライン 199

利益 200
離職率 201
立志伝中の人 201
稟議 202
臨時雇い 203

零細企業 203
連結決算 204

労災 205
労使関係 206

労働組合 206
労働力 207
労働倫理 208
ロボット 209

わ

若返り 209
わが社にあった人間 210
ワンマン経営 211

索引 213

日本的経営を説明するための辞書

Dictionary of Japanese Business Culture

あ

— あ —

愛社精神 loyalty (dedication, devotion, attachment, commitment) to the company

欧米では、日本のサラリーマンのもつ愛社精神は、日本企業に高生産性をもたらすものの1つであると考えられている。この「愛社精神」を表現するとき、欧米の新聞、雑誌は loyalty (忠誠心) ということばをたいていは使う。

外国人の目に映るほど、日本のサラリーマンは会社にも身も心も捧げるほどの忠誠心をもっているわけではないが、 corporate loyalty, loyalty to the company, worker loyalty, employee loyalty などと、日本のサラリーマンの会社になつて感情を表現する。定時になつても帰宅しようとはせず、毎日、夜遅くまで仕事をする日本人サラリーマンは、会社に対し忠誠心をもっているように見えるのであろう。

loyal に代わつて faithful, true もよく用いられる。逆に、愛社精神をもたない人たちを形容する場合には disloyal, less loyal, faithless, untrue を使えばよいことは想像するにたたくない。

また、日本人にはなじみはうすいが cavalier (尊大な、無頓着な) という形容詞も「愛社精神」の反意語としてよく出てくる。cavalier が名詞として使われるときは「騎馬武者」「騎士」という意だが、形容詞だと「ごう慢な」「横柄な」という意になり、loyal の反意語となる。

dedication to the company, devotion to the company, attachment to the company, commitment to the company も「愛社精神」という意で

使われる。dedication, devotion は「献身」, attachment は「愛着」, commitment も「傾倒, 献身」という意味をもつ。

「会社に忠誠を尽くす」なら, loyalty の前に show (示す), pledge (誓う) という動詞をもってくればよい。また to dedicate (devote, commit) oneself to the company としてもよい。「愛社精神を植えつける」なら to build (instill) loyalty といういい方をよくする。

The firm strives to build strong ties with its employees in the belief that the worker will then *show loyalty* to the company in return. (*Time*)
(従業員がお返しに忠誠心を示してくれることを信じて, 会社は従業員との間に強い絆を結ぼうとする)

Corporate loyalty is big at TI. (Business Week)

(T I 社の従業員は会社に対し強い忠誠心をもっている)

U.S. companies are starting to experiment with "no layoff" policies in hopes of *building worker loyalty*. (*Business Week*)

(アメリカの企業は従業員の忠誠心を涵養するため, レイオフをしないという政策を実験的に実施し始めている)

College graduates who cannot work in the proper position will be *less loyal to their companies and jobs*. (*Newsweek*)

(思い通りの仕事に就くことのできない大卒者の会社や仕事に対する忠誠心はより希薄なものとなろう)

This is aimed at *instilling the "intense loyalty"* that workers exhibit in Japan. (*Business Week*)

(これは, 日本で従業員が会社に対して見せる強い忠誠心を植えつけることを目的としている)

Attachment to their own big companies is felt by the one third of Japanese workers. (*The Economist*)

(日本の労働者の3分の1が, めいめいが雇われている大企業に対して忠誠心をもっている)

To the industrious Japanese, a *cavalier attitude* toward work would be as much of a shock as the job crisis itself. (*Newsweek*)

(勤勉な日本人にとって, 仕事に対する無頓着な態度は, 現在の就職難

と同様、大ショックにちがいない)

天下り *amakudari* (descent from heaven)

ローマ字で “amakudari” として, literally descent from heaven がよく使われる。しかし、これだけでは不十分で, It is a Japanese custom that after retirement, senior bureaucrats become top executives of companies they once regulated. などといった説明が必要。「天下り重役」は A former bureaucratic superior-turned-business executive。「天下る」は, High-ranking officials retire to become senior executives of companies. など。「天下り先」は heaven for retired officials といったいい方ができる。

When senior civil servants leave government, they may become top advisers in the very corporations they once regulated; the custom is called “amakudari” or, literally, “descent from heaven.” (*Time*)

(高級官僚が退職すると、かつて監督した企業の相談役などになる。この習慣は「天下り」つまり「天上からの降下」と呼ばれている)

The readiness of firms to absorb new ideas worked out between government officials and industry representatives is far more important to Japan's success than the fact that the most influential MITI officials retire to become senior executives of big companies. (*The Economist*)

(日本の成功にとってはるかに重要なことは、最も影響力のある通産官僚が退職すると大企業の役員に就任するという事実よりも、政府役人と業界代表とで導き出した新しいアイデアを企業が吸収できる態勢にあるということである)

A former bureaucratic superior-turned-business executive can inhibit young men from the ministry. One popular heaven for superannuated officials in Japan is the oil industry. (*The Economist*)

(企業の役員に天下った元高級官僚は、出身省の後輩をけん制することができる。石油業界は、日本では退職した高級官僚に人気のある天下り先の1つである)

アルバイト *sideline, job on the side, moonlighting*